

私をデモへ駆り立てるもの

無職

(兵庫県 74)

私は父を生後8カ月の時に亡くした。体の丈夫な人だったらしいが出征先の戦場で体を壊し、復員後も体調は戻らず肺炎になって亡くなったと聞いている。一人で子ども4人を育てた亡き母は「戦争さえなかったら」が口癖だった。

生活は貧しく、成人式は高校の制服にレインコート兼スプリングコートを着た。当時は今ほど出席者の服装は派手ではなかったが惨めな気分だった。心の傷は今も消えない。しかし式典で「奮める者も貧しい者も一票だけは平等だ」と気づき、以来、命と平和を大切

にするため投票し続けてきた。

貫いてきたのは、一党独裁にしてはいけないということ。支持する政党は特にないが、良い野党を育ててこそ、良い政治が成り立つと信じてきた。なのに安全保障法制成立の様子などを見ていると、今の政治は悪い方向へ進んでいるように思う。むなしさと悔しさがこみ上げ、この現実が私をデモへと駆り立てる。これまで3回参加し、集会や講演会にも行った。

国の多額の借金、原発、高齢社会、所得の格差。問題は山積みだが、未来の子どもたちのことを政治家は考えているのか疑問だ。声を上げなければと、ペンを執った。